

平成27年度全国学力・学習状況調査 結果の概要

女川町立女川中学校

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善への取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日 平成27年4月21日(火)

3 対象学年 女川中学校第3学年生徒 61名(在籍63名)

4 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査：国語、数学、理科
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5 本校と全国との比較

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
宮城県	5ポイント程度下回っている。▼	10ポイント近く下回っている。▼	5ポイント程度下回っている。▼	5ポイント以上下回っている。▼	5ポイント以上下回っている。▼
全国	5ポイント程度下回っている。▼	5ポイント以上下回っている。▼	5ポイント程度下回っている。▼	5ポイント以上下回っている。▼	10ポイント近く下回っている。▼

○3教科全てにおいて、県及び全国平均正答率を下回る結果となった。国語Bと数学Bは特に下回る結果となった。

6 学力調査結果から

(1) 国語の成果・課題と指導改善のポイント(県・全国と比較して特に課題のある点を中心に)

①調査結果から明らかになった成果・課題等

- (成果)「話すこと・聞くこと」については、ほとんどの設問で全国よりも高く、力が付いている。特にスピーチの仕方、質問しながら聞き取る力についての理解が全国よりも高い。
- (課題)・「話すこと」では、資料を作成したり提示したり活用したりする力が低い。
- ・「書くこと」については、推敲の力と表現技法の理解が全国より低い。また、根拠を明確にして書く力が低い。
- ・「読むこと」については、目的に応じて要旨をとらえる力が全国より低い。また、表現の工夫の理解が低い。
- ・「言語事項」(漢字の読み書き、語句の意味、敬語、手紙の書き方)の知識・理解が全国よりも非常に低く、古典の基礎的知識も低い。

②指導改善のポイント

- ・「話すこと」については、資料を効果的に活用しながら話す力を高める必要がある。
- ・「書くこと」については、表現技法の知識、根拠を明確にして書こうとする態度の育成、推敲の仕方の理解が必要である。
- ・「読むこと」では、表現技法の理解、要旨をとらえる力を高める指導が必要である。
- ・国語の力の土台となる「言語事項」については、漢字、文法、語句の意味等の基礎的な知識・理解を図る学習を充実させる必要がある。

(2) 数学の成果・課題と指導改善のポイント(県・全国と比較して特に課題のある点を中心に)

①調査結果から明らかになった成果・課題等

- (成果)「数と式」の領域の力が全国平均より高いものが多い(「比の意味」「一次式の減法」「等式の変形・性質の理解」)。
- (課題)・「数と式」の領域では、「数と式」分野で正の数と負の数の乗法、数量の関係を式で表すこと、連立二元一次方程式をつくる設問の正答率が全国よりも大きく下回っている。
- ・「図形」分野はほとんど全ての設問の正答率が県よりも下回っている。
- ・「関数」についてもほとんど全ての設問において全国を下回っており、グラフ上で座標を求める設問、時間と道のりの関係の理解について全国よりも大きく下回っている。
- ・「資料の活用」では、度数分布表の理解について全国よりも大きく下回る。
- ・活用する力として、考えを説明する力、情報を選択して適切に処理する力が全国よりも低い。

②指導改善のポイント

- ・「数と式」については、四則計算、等式の理解について反復・継続指導が必要である。
- ・「図形」全般について、補充学習する時間を確保する必要がある。
- ・「関数」については、グラフの理解に十分時間をかけて指導する必要がある。
- ・度数分布表の理解について補充学習を行う必要がある。
- ・考えを説明する力、情報を選択して適切に処理する力を高めるための指導が必要である。

(3) 理科の成果・課題と指導改善のポイント(県・全国と比較して特に課題のある点を中心に)

①調査結果から明らかになった成果・課題等(県と比較し課題のある点を中心に)

- (成果)自然事象についての「知識・理解」に関する設問の正答率は全国よりも高く、基本的な知

識・理解はある程度定着している。特に、気象に関する知識・理解、生物的領域の知識・理解が全国平均よりも高い。

- (課題)・全体的に第1分野の領域に関する設問の正答率が全国よりも低い。
- ・科学的な思考・表現、観察・実験の技能に関する設問の正答率が全国よりも低い。
 - ・科学的領域では、特に、化学変化に関するグラフの読み取り、適切な実験計画の正答率が全国よりも低い。
 - ・物理的領域については、特に、電流、磁界、適切な実験計画の正答率が全国よりも低い。
 - ・他者の考察を検討し、適切な考察を記述する設問の正答率が全国よりも低い。

②指導改善のポイント

- ・基礎的な知識・理解はある程度定着しているので、それを基にした思考力・表現力を高める指導が必要である。
- ・観察・実験の技能だけでなく、課題を解決するための実験計画を立てる力を高める必要がある。
- ・化学変化、電流、磁界についての補充指導が必要である。
- ・他者の考えを考察したり、自分の考えを説明したりする力を高める指導が必要である。

7 生活習慣や学習環境に関する調査から

* 県・全国と比較して良好であると思われる点

- 起床、就寝、朝食について、規則正しい生活習慣が身に付いている生徒の割合が県・全国よりも高い。
- 「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがあるか」、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しているか」、「自分にはよいところがあると思うか」について、県・全国平均よりも高く、自尊感情が高い傾向がうかがわれる。
- 家で学校の授業の予習をしている生徒の割合が県・全国平均よりも高い。
- 学校に行くのが楽しいと感じている生徒の割合が県・全国平均よりも高い。
- 原稿用紙2～3枚の文章を書くことが難しいと感じている生徒の割合が県・全国平均よりも低い。
- 国語の勉強が好きだと感じている生徒の割合が県・全国平均よりも高い。
- 理科の授業で考えを発表する時間があると感じている生徒の割合が県・全国平均よりも多い。
- 理科の授業で観察や実験をよく行っていると感じている生徒の割合が県・全国よりも非常に多い。

* 県と比較して特に課題があると思われる点について)

- 意識に関する調査から
- 学習を阻害する要因の調査から
 - ・携帯電話やスマホを使ったゲーム、メール、インターネット等をしている時間が県・全国平均よりも長い。
- 学力向上を促進する要因の調査から
 - ・平日・土日ともに、家庭学習時間が県・全国平均よりも少ない。
 - ・学習塾に通っている生徒の割合が県平均の約半分である。
 - ・1日当たり読書を全くしない生徒が半数を超え、県・全国の割合よりも非常に高く、地域や学校の図書館を利用する生徒の割合も低い。
 - ・読書が好きだと感じている生徒の割合が県・全国平均よりも低い。
 - ・家で学校の授業の復習をしている生徒の割合が県・全国平均よりも低い。
- 授業に関する調査から
 - ・授業のはじめに目標(ねらい)が提示されていると感じている生徒の割合が県・全国平均よりも低い。
 - ・授業の終わりに学習を振り返る活動が行われていると感じている生徒の割合が県・全国平均よりも低い。
 - ・授業で分からないことがあったとき、先生に尋ねようとする生徒の割合が県・全国平均よりも低い。

8 今後の取組

(1) 学びの土台となる学習習慣の形成

- ① 自主学習ノート (「継続は力なり」) を毎日提出させ、点検して返却する。
- ② 授業で学習した内容の定着を図る復習問題、次時の学習につながる学習課題を用意して行わせる。

(2) 学びを促進させる生活習慣の形成

- ① マイセブンデイズ を活用し、早寝・早起き・朝ごはんの習慣をより促進させる。
- ② 生徒会で推進している「1210運動」(携帯電話・スマホの使用は1日2時間以内、10時まで) をさらに支援し、保護者の啓蒙も図っていく。
- ③ 朝読書の推進、読書記録カードの作成等を通して、読書習慣の定着を図る。

(3) 教科の学習指導

- ① 国語、数学、理科それぞれについて、前述した 指導改善のポイント を 共通理解 して教科の学習指導で実践していく。
- ② 質問紙調査で明らかになった課題である、授業のねらいをつかませること、振り返りの時間を確保すること を意識して、全教科で実践していく。
- ③ 調査問題を教師自身が解き、求められている力を理解した上で、授業づくりを行う。

(4) その他

- ① 校内研究の推進、研究授業の実施、各種学力調査等の分析を行い、教員の学習指導力の向上を図る。
- ② 小・中における課題及び取組を共有し、小・中連携を図りながら改善に取り組む。
- ③ 学力向上をねらいとした校内研究を実施し、学校全体としての共通実践事項を決めて実践していく。
- ④ 基礎的・基本的な知識・理解を定着させるために、小テストを定期的に実施し、積み上げていく。